



The TKKF TIMES

高崎経済大学附属高校新聞部 4月6日(水)発行 入学式号

TKKF's Mysteries

あなたの知らない高経附 前編

経附生が青春の高校時代の大半を過ごすことになる高経附の校舎。ここには数十年前に建てられたが故の謎設計や、当時の遺産が多く残されている。今回はそんな「これ、なんのためにあるの」と誰もが思うような高経附の謎を解明しよう。

① 閉ざされた屋上

多くの人が「夢の高校生活に欠かせないもの」の一つとしてあげるのが「学校の屋上」である。ドラマや小説でもたびたび青春の舞台として扱われるこの場所は、本校ではどのような存在なのだろうか。

ご存じかもしれないが、屋上へ続く4階への階段は「立ち入り禁止」の立て札によって閉ざされている。残念ながら、高経附においては「恋人と一緒に屋上ランチ」なんていう行為は夢のまた夢のようだ。しかし、立ち入り禁止だ

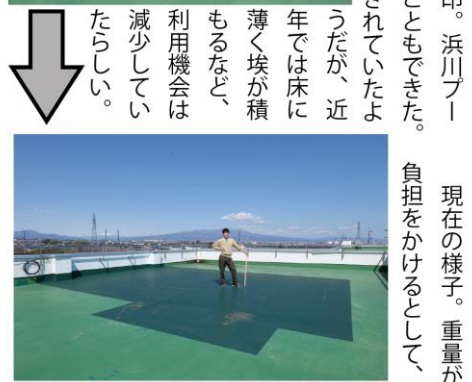


▲ ちょっとした球技ならできそう

天体観測施設の歴史



半球状の屋根が目印。浜川プール側からは目視することもできた。以前は合宿等で利用されていたようだが、近年では床に薄く埃が積もるなど、利用機会は減少しているらしい。



現在の様子。重量が校舎に負担をかけるとして、生徒の安全のために解体された。色が濃い部分が目立つ。

② 恐怖のダイヤル式電話

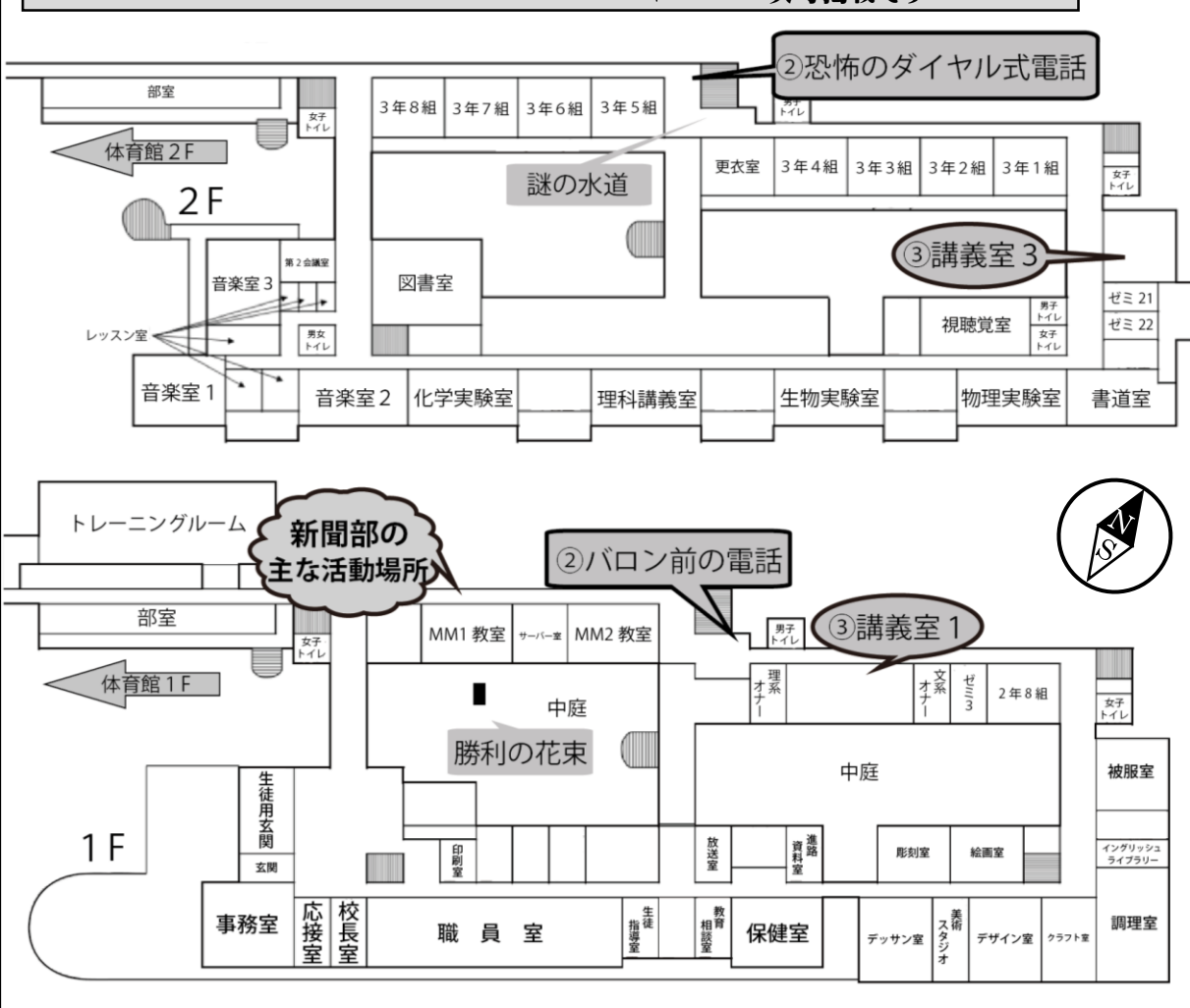
廊下に設置されているダイヤル式電話に、皆さんはお気づきだろうか。各階の中央階段付近にあるこの電話だが、古めかしいその風貌から、かなり年季の入ったものであることが見て取れる。バロン前にも設置されているこれを見て、新聞部は思った。「これらの電話がもし現在も使用可能な

からと言って諦める新聞部ではない。今年も学校に特別許可をいただき、潜入することに成功した。写真が屋上の様子である。広さは横約10メートル、縦約48メートルの約480平方メートルだ。つまり東京ドーム100分の1個分、わりやすく言えば教室4個分ということになる。付近には高い建物が存在しないこともあり、市内の全方位をクリアに見渡すことが可能だ。低い柵も相まって、開放感抜群である。もしここで昼休みを過ごすことができたら、きっと楽しいひとときを過ごせただろう。

ちなみに、屋上の床には一部分だけ色が違うエリアがある。これは昨年まで設置されていた「天体観測施設」の跡地で、内部に巨大な天体望遠鏡を備えた本格的な施設だった。残念ながら昨秋の耐震工事で撤去された生徒たちの夜空への知識は、理系オナーの活動に今もなお生きている。

校内地図と謎の分布

※ 枠線なしの吹き出しは次号掲載です



▲ 人生で一度は回してみたい

ら、バロンへの電話予約ができるのでは?。そもそも何を予約するのかは謎だが、学校から特別に許可をいただいて検証を行った。内容は「2階廊下の電話から発信し、バロン

前の電話と通話する」というものである。宮田先生にご協力いただき、内線番号の一覧を入手して検証を開始した。結論から言うと、使用は可能だった。2階でダイヤルを回し終わると同時に、バロン前の電話のベルが不気味な音で鳴り響いたのである。ホラー映画の素材になりそうなレベルだ。しかし、通話時の声の伝わり方は良好で、問題なく会話することができた。つまり、番号さえわかればバロンに

電話することも可能らしい。しかし、この検証は学校の許可の上で成り立っているため、緊急時以外に実際に電話を使用することはご遠慮願いたい。また、ここで注意しておきたいのが「各階の電話に添えられている内線番号表」である。写真のように、一見すると他の階への発信方法のように見えるが、これは実は職員室の電話に通じる番号だ。1年と書いてある番号に発信すれば、1年生担当の先生方に最も近



▲ かけるな危険

③ 経附生と秘密の部屋

「今回の授業は講義室4で行うので...」〇委員は昼休みに講義室3に集合してください...。学校生活で必ず聞くことになるこれらの台詞だが、誰も一度は心中で呟くのが「講義室〇ってどこだよ」である。多数存在する上に場所がわかりにくい、そんな幽霊のような不遇な存在「講義室」こそ、「TKF's Mysteries」にふさわしいはずだ。ここではそれらの場所を簡単に説明する。

まず「講義室1」だが、これはバロンと同じ並びにある教室だ。バロン側から数えて2つ目(裏面へ続く)